

はひふへ 本光寺

木魚のぼっくん



日蓮宗法華道場 光胤山 本光寺

〒272-0805 千葉県市川市大野町3-1695-1

TEL 047-337-8324 FAX 047-337-4400

http://www.honkouji.com



出世弁財功德天女
(しゅっせべんざいぐどくてんによ)

勧請されています。(昔はJR渋谷駅の線路脇に渋谷の守り神として祀られていました)

毘沙門天は軍神と財宝神、両方の側面を持ち、戦国時代には武田信玄や上杉謙信など多くの武将たちに信仰されました。特に上杉謙信は自身を毘沙門天の生まれ変わりとし、軍旗に「毘」の字を用いて戦場を駆け回っていました。本光寺の本堂には、一塔 両尊 四士 四天王 二菩薩 二明王が勧請されており、四天王の一神として勧請されています。

(ちなみに一塔は宝塔、両尊は釈迦如来と多宝如来、四士は上行菩薩・無辺行菩薩・浄行菩薩・安立行菩薩、四菩薩は持国天・増長天・広目天・多聞天(毘沙門天)、二菩薩は文殊菩薩と普賢菩薩、二明王は不動明王と愛染明王です)

最後にお正月としてめでたい金の「金大古久天」。大黒様といえば、左肩に大きな袋を背負い、右手に打ち出の小槌を持ち、米俵をふみ、いかにも福々しい姿や日本神話の因幡の白兔に出てくる大黒様を思い浮かべます。そのルーツは、サンスクリット語でマハー



大黒天 金大古久天(きんだいこくてん)

カーラと呼ばれるインドの神様です。この音を漢字にすると摩訶迦羅となり、マハーは大、カーラは黒色を意味するので大黒天と呼ばれるようになりました。

日本で大黒天といえば一般的には神田明神の大黒天(大国天)像に代表されるように神道の大国主と神仏習合した日本独自の神のことをいうことが多いです。

本光寺の大黒天は金色に輝いているので「金大古久天」と命名されました。住職が、心を込めて以前あった大黒天を復興させようと、平成16年(2004年)に市川市銭湯「恵比寿湯」を営む檀家会員の協力により復元したもので本堂に勧請されています。

皆様と本光寺のご縁を大切に、新しい年も皆様およびご家族、すべての方々に幸多かれと心より祈っております。よいお年をお迎えください。



多聞天(毘沙門天)



毘沙門天



本光寺の イメージキャラクター 「木魚のぼっくん」



「こぞうくん」と「木魚のぼっくん」がお友達になりました。

「こぞうくん」は日蓮宗の親善大使です。のんびり・こわがり・おっちょこちょいの三拍子。好きな食べ物はくずもち。世界中の人とお友達になってみんなで歌うのが夢という愛すべきキャラクターです。

皆様にはもうおなじみかと思いますが、本光寺のイメージキャラクターは「木魚のぼっくん」。本光寺は、子育て応援の活動を微力ながら取り組んでいます。国（厚生労働省）、千葉県、市川市、松戸市に子育て応援を登録しています。平成25年(2013年)3月20日には絵本「木魚のぼっくん」をつくり、千葉県内の図書館、市川市内の幼稚園や保育園、小児科医院など多方面にわたり1025冊を寄贈しました。

今年の10月28日、親善大使の「こぞうくん」が本光寺にいらっしました。

こぞうくん：初コラボ撮影会&お会式のお手伝いに参加してきたよ～。
日蓮聖人様の像の前で記念撮影したよ（もちろん「ぼっくん」と一緒）

木魚のぼっくんは、優しいだけじゃなくて、悪いことをした人には、ちゃんと叱るんだよ！ご住職が悪いことしちゃったから、めっ！てしているんだよ～ ごめんなさい！

「木魚のぼっくん」と「こぞうくん」はお友達になりました。

これからも、ぼっくんとこぞうくんは、日蓮宗の紹介や仏様の教えを忠実に守り、様々な参拝者や祈願をなされる方々を、お子様からお年寄りまで、男の方から女の方まで、365日見守り続けています。



住職のちよっといい話(20目)

約1年前に悩み相談にお越しになった男性の話。男性は、悩み相談をきっかけに、毎週末、朝のお祈りに参加するようになりました。

ある朝、朝のお祈りが終わり、彼が帰る間に「今日もお掃除させていただきます！」

住職の頭のなかは「・・・(不思議、何のこと?)」訳も分からず、「ああ～、よろしくお願いします！」と答えました。

住職が朝の準備をしていると、20年もの長きにわたりお掃除をしていただいているお婆ちゃんがやって来ました。

「おはようございます。朝のお祈りに参加された方が、お掃除をしているかもしれませんので、よろ

しくお願いいたします。」と住職。

すると、お婆ちゃんから意外な言葉が・・・

「彼ね、私のことをお母さんだって。お母さんが少しでも楽になるように、お掃除をお手伝いしますって！」と嬉しそうにお婆ちゃんが話しました。

「そうだったのか！」

翌週、「いつもお掃除、ありがとうございます！」と話すと、

彼は「いえいえ、こちらこそありがとうございます！」

やはり、お寺はお気持ちで成り立っているのだと実感した瞬間でした。

